答えが分からずに過ぎた日々仕事とは? お金を稼ぐこととは?

川上健さんは、東京都文京区春日に工房を構え

の地に工房を構えたのは、生まれ育った土地で てモノ作りをして今年で8年目に突入する。こ

今の家族と生活をしている土地だから



AJINA KEN KAWAKAMI (age 41)



ひと言からだった。

価値あるものを作りだす喜び 自分の手から

やるからにはこれで一生やっていく気で取り組 これはめぐり合わせかなと思ったんです。 「職人の募集なんて滅多にあることでない. ないとダメだなと覚悟を決めました」 もう若くもありませんでしたから、

は独立の道も考え始めた。その時に手伝ってく がモノを作り彼が戦略を考えて売ってくれたん かりで物販についてお互いに勉強をしようと僕 **事に充実感を味わいながらも6年目くらいから** 「彼もちょうどHPを作る会社を立ち上げたば す。そしたら、全然売れないわけじゃなか 家族経営の小さなその店では彫金の仕事を ちょうど2人目の子どもが生まれ、自分のラ れるか考えて、独立に踏み切りました」 それを手掛かり ークラフ ーマン時代に出来た友人だった。 も手伝うようになる。仕 したら売れるものが

Profile 川上健/1976年、東京都出身。専門学校を卒 業後、大手自動車メーカーのディーラーに整備士として入社。 退職後ワーキングホリデーを経験、帰国後リクルート関連 の会社のコールセンターで勤務。趣味で始めたシルバー 制作をきっかけに、アクセサリーショップで職人としての経 験を積む。2010年、自らのブランドを立ち上げ独立。「味 なもの」を作っていきたい、またそれを持って「味な人」 になって欲しいとの意からブランド名を「AJINA」と命名

ルを再構築するのにも絶好のタイ

シルバー

シルバーアクセサリーには自然界にあるモチーフを用いることが多い。地金から叩き出 していくのでひとつひとつ微妙に表情が違うのは手仕事で作るモノの最大の魅力だ

色が好きだし、そういう方が見ていても気分が うのが主流。でも自分は小さい頃から鮮やかな あがる。そういうものを作りたいと思ったんで うに、家族がいる生活圏でモノ作りを始めた。 のモチーフは作っていても面白いですね」 ングだった。修行していた店がそうであったよ 制作はシルバーもレザー ー製品というと黒とか茶とか生成りとい も同じ。カエルやトカゲなど生物 もすべて 1人で行っ

商売は決して1人ではできず、成功するには技 人との出会いがあり、その支えにより今がある。 いる。しかし、これまでの転機にはいろんな モヤとしたものも消えた。 も人との繋がりが大切だということが分 マン時代に仕事に対して持っていたモ 自身のブランドを持ったことで、

さるんだということが、 **を買ってくれるお客さんがいて自分は生活がで** たとえ5百円の商品でも、 直線で繋がったんです。 自分が作ったもの

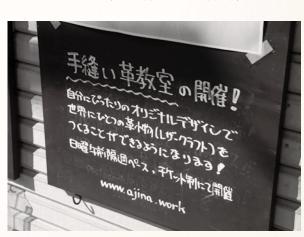
> 不安感は 価値あるものを 創り出すパワーになる



工房の隣にあるフリー スペースでは、手縫い 革の教室も開催してい る。自分がモノ作りで 得たことを少しでも人 のために役立つならと いう思いではじめた(詳 細はHPを参照



発色のいいレザーを探して探して出会ったのがイタリアの天然染料で染めているレザー。 レザーの色とのコントラストを楽しめるよう縫い糸の色の選択にも気を遣う



167 APR. 2018 Hail Mary Magazine APR. 2018 Hail Mary Magazine 166

た友人が行きつけ

のシルバ

ーを作るきっかけとなっ

ーアクセサリ

ていなかった。

転機は27歳

その時は、それが仕事に

ったんです」

方があるということを知り、

どんどん面白くな

たのは自分が持っているようなものとは違った

米るキットを買って作ってみた。ところが出来

んです。そこで調べてみると銀板から作るや

を作ってみようと思い、東急ハンズで簡単に出

を作り始めたと聞いた。「元々僕もアクセサ

-は好きだったので、それじゃあ僕はシルバ

も思えなかった。ある日、

友人が趣味で革小物

そののちに親戚の口添えでスーツを着ての会社

その仕事を一生続けようと

う意味に疑問を感じ1年ほどで退社を決意した。

営業との板挟みにも疲れ、

″働く″ とい

かけにエンジンなどの機械系に興味を持ち、

高校生の時にバイ

クに乗り始めたことをきっ

門学校へ。卒業後は整備士として会社に就職し

くから夜遅くまで働く日々。時間に追